



2015年3月期 第1四半期 決算概要

テルモ株式会社
上席執行役員 経営企画室長

羽田野 彰士

2014年8月6日

2015年3月期 第1四半期の決算概要について説明します。

決算ハイライト

全社

- 薬価・公定価改定の影響を吸収し、増収増益を確保
- 営業利益は21%増、為替を除いても二桁増益

心臓血管

- 公定価改定により国内減収も、海外はカテーテルを中心に伸長
- 新DESのUltimasterは、予定通り6月より欧州から販売開始

ホスピタル

- 消費税増税の反動減や薬価・公定価改定の影響がある中、基盤医療器の原価改善により利益率維持

血液

- 厳しい市場環境も、治療アフェシス等の伸長により、増収増益を確保



2014/8/6

©Terumo Corporation

2/23

はじめに決算ハイライトです。全社業績ですが、薬価公定価改定の影響を吸収し、増収・増益となりました。営業利益は対前年同期比21%の増加、為替の影響を除いても二桁増益を達成しました。

カンパニー毎では、心臓血管カンパニーにおいて、公定価改定の影響で国内は減収となりましたが、海外はカテーテルを中心に伸長、本年6月には、新しい薬剤溶出型冠動脈ステント「アルチマスター」を予定通りに欧州から販売開始しました。この製品は自社開発品な為、大きな収益改善を期待しています。

ホスピタルカンパニーでは、消費税増税前の駆け込み需要の反動減や薬価・公定価改定の影響があるなか、基盤医療器の原価改善により利益率を維持しました。

血液システムカンパニーは、欧米を中心に引き続き厳しい市場環境でしたが、治療アフェシス等の伸長により増収増益を確保しました。

増収増益、営業利益21%増

(億円)

	13年度Q1	14年度Q1	増減率	為替除く
売上高	1,111	1,149	+3%	+1%
粗利益	570 (51.3%)	607 (52.8%)	+7%	+2%
一般管理費	361 (32.4%)	379 (33.0%)	+5%	
開発費	76 (6.9%)	67 (5.8%)	-12%	
営業利益	133 (12.0%)	161 (14.0%)	+21%	+12%
(のれん等償却除く)	173 (15.6%)	202 (17.6%)	+17%	+9%
経常利益	129 (11.6%)	144 (12.6%)	+12%	
純利益	90 (8.1%)	84 (7.3%)	-6%	

期中平均レート	USD	99円	102円
	EUR	129円	140円



2014/8/6

©Terumo Corporation

3/23

決算概要について説明します。第1四半期の期中平均レートは1ドル102円、1ユーロ140円と、対前年同期比でドル3円、ユーロ11円の円安となりました。この円安の効果もあり、売上高は前年比3%増の1,149億円となりました。これには32億円の為替のプラスが含まれています。

粗利益率は、課題であったホスピタル事業の新製品の立ち上げ遅れによる生産性の悪化が上向きに転じ、また円安による増益効果もあって、対前年同期比で1.5ポイント改善しました。

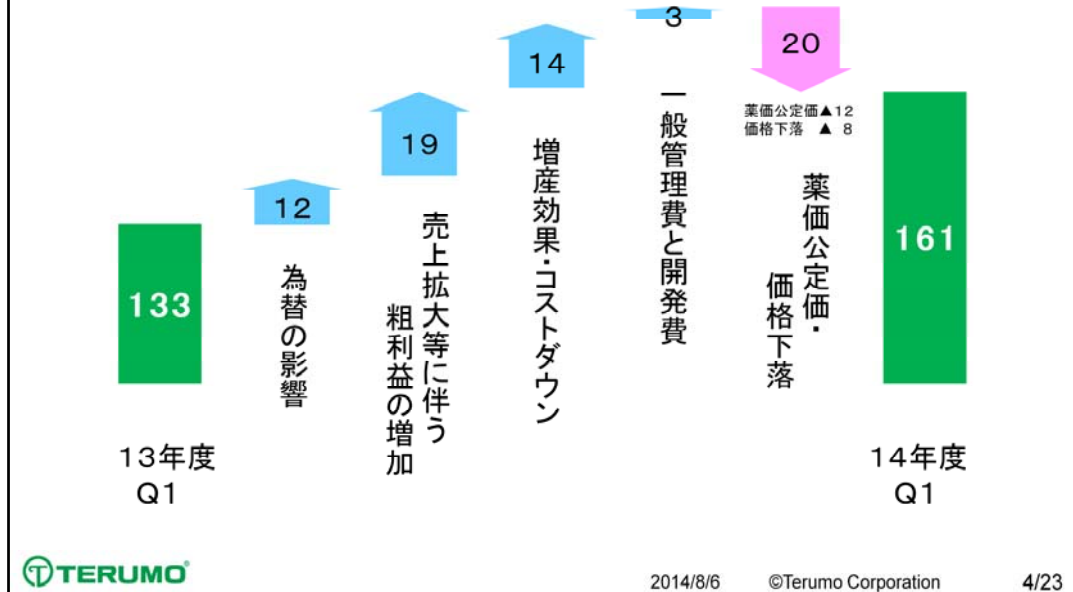
一般管理費は前年比5%増でしたが、一方で開発費は12%減となりました。これは昨年度第1四半期に人工心臓DH2の開発費が含まれていたことによります。

この結果、営業利益は161億円、前期比21%増の2桁増益となりました。この営業利益には12億円の為替のプラスが含まれています。

経常利益は12%増の144億円、純利益は前期の税負担額が一時的要因で低かったものが、今期は通常レベルに戻ったことにより、6%減の84億円となりました。

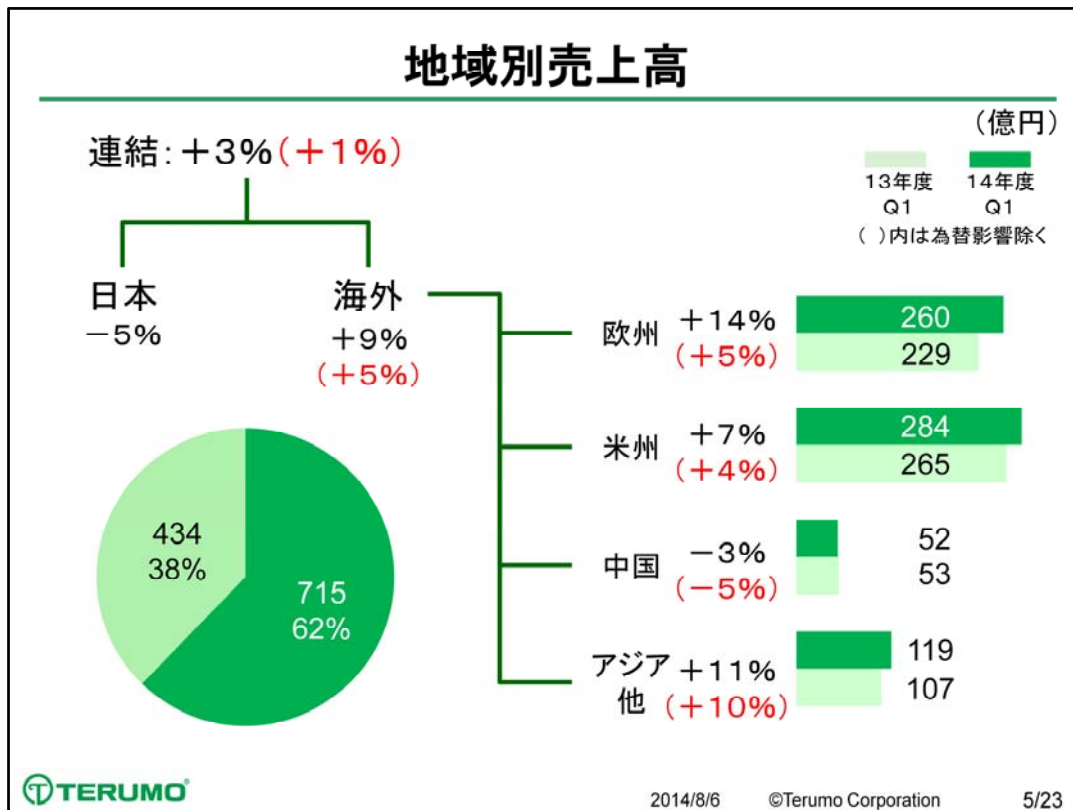
営業利益増減分析

(億円)



営業利益の増減分析です。

14年度第1四半期実績には為替によるプラス、売上拡大に伴う粗利益増加、更に増産効果・コストダウン、そして一般管理費・開発費の減少があり、薬価公定価・価格下落の影響20億円を吸収し、営業利益は28億円増加の161億円となりました。

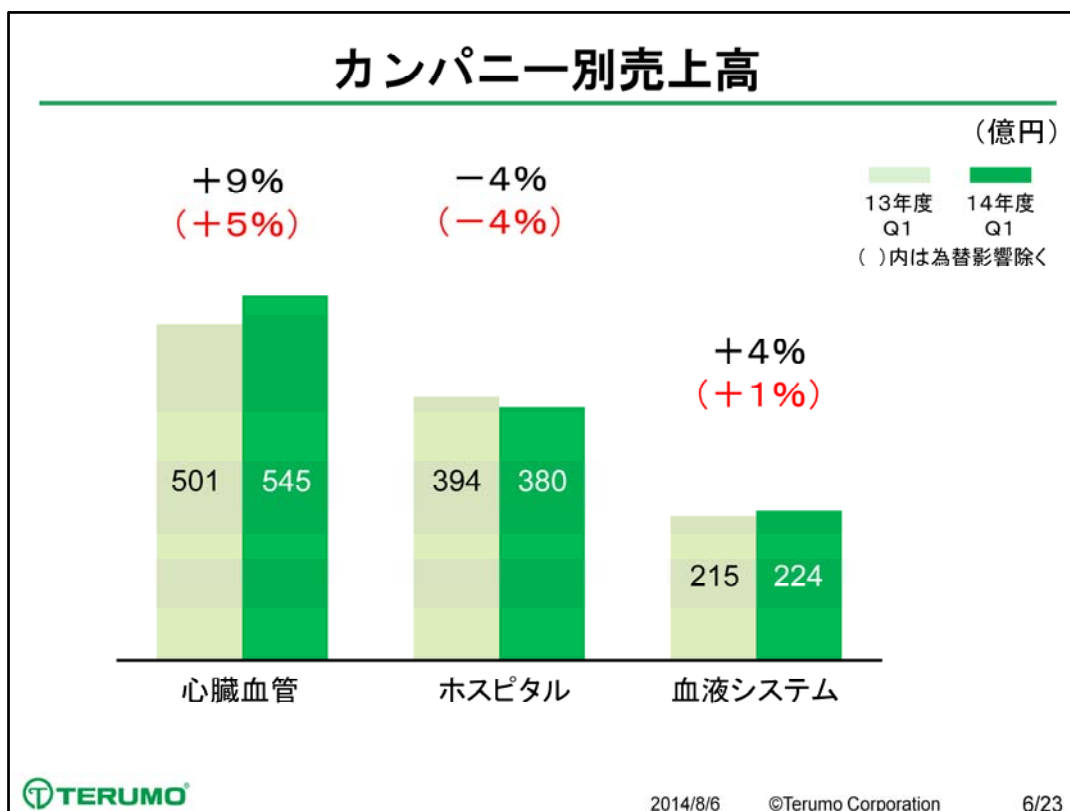


地域毎の売上と伸長率を示したグラフです。カッコ内の%は為替影響を除いた伸長率を示しています。

国内は、薬価公定価改定が影響し、前期比5%の減収となりました。

海外は、心臓血管カンパニーを中心に売上を伸ばし、前期比9%の増収となりました。海外の為替影響を除いたベースでは前期比5%の伸長になりました。この結果、海外売上比率は62%となりました。

この第1四半期では中国の売上がマイナス3%となりました。これは、現地代理店網の見直しの影響による一時的で要因であり、年間では10%台半ばの売上伸長を予定しています。



各カンパニーの売上高実績です。

海外売上比率の高い心臓血管カンパニーと血液システムカンパニーがそれぞれ9%、4%の伸長となりました。なお、カッコ内の%は為替影響を除いた伸長率を表わしています。

カンパニー別事業利益

(億円)

		13年度 Q1	14年度 Q1	増減率	為替除く
事業利益	心臓血管	93 (19%)	114 (21%)	+23%	+8%
	ホスピタル	48 (12%)	46 (12%)	-4%	-2%
	血液システム	41 (19%)	42 (19%)	+3%	+1%
	その他 ※	-8	0	-	-
営業利益 (のれん等償却除く)		173 (16%)	202 (18%)	+17%	+9%

※その他：カンパニーに直接関連しない項目



2014/8/6

©Terumo Corporation

7/23

各カンパニーの利益の状況です。

のれんやBCT社買収時に発生した無形資産償却を除いた事業利益を示しています。

3カンパニーの中では、心臓血管カンパニーと血液システムカンパニーで増益、ホスピタルカンパニーで減益となりました。

それでは次に各カンパニーの状況について個別にご説明いたします。

心臓血管カンパニー：増収増益を達成

(億円)

	13年度 Q1	14年度 Q1	増減率	為替除く
売上高	501	545	+9%	+5%
事業利益 (率)	93 (19%)	114 (21%)	+23%	+8%

- 海外カテーテルの売上伸長 +28億
- ニューロでは新製品(ステント、バルーン)を軸にグローバルで売上拡大+9億
- TCVS社の品質システム改善費用が前年同期比 5億減
- 公定価改定の影響 ▲10億
- 予定通り新DES、Ultimasterを欧州からローンチ



2014/8/6

©Terumo Corporation

8/23

まず心臓血管カンパニーです。

売上高は545億円となり、国内の公定価改定の影響を受けたものの、海外で売り上げを伸ばし9%伸長、為替の影響を除き5%の伸長となりました。

事業利益は、114億円、23%伸長、為替の影響を除き8%伸長です。事業利益率は2ポイント改善しました。

先ず売上ですが、海外カテーテルの売上拡大、ニューロバスキュラー事業は新製品のステント、バルーンを軸にグローバルに、それぞれ28億円、9億円の売上増となりました。

利益面では、この第1四半期では、TCVS社の品質システム改善費用が前年同期比で5億円の減少となりました。また、公定価改定の影響は10億円でした。

トピックスとしては、冒頭の決算ハイライトでも触れましたが、新しい薬剤溶出型冠動脈ステント「アルチマスター」を、予定通り欧州からローンチしました。

ホスピタルカンパニー:売上減も利益率を維持

(億円)

	13年度 Q1	14年度 Q1	増減率	為替除く
売上高	394	380	-4%	-4%
事業利益 (率)	48 (12%)	46 (12%)	-4%	-2%

- 消費税増税の反動減(ポンプ、血糖計チップなど) ▲5億
- 国内プレフィルドシリンジ受託事業の受注期ずれ ▲4億
- 薬価・公定価改定の影響 ▲2億
- 基盤医療器の原価改善効果 +4億
- サーフローV3の原価改善に向けてフィリピン工場生産開始



2014/8/6

©Terumo Corporation

9/23

次にホスピタルカンパニーです。

売上高は380億円となり、4%の減少となりました。

事業利益は、46億円、4%のマイナス伸長、為替の影響を除き2%のマイナス伸長です。事業利益率は12%と利益率を維持しました。

売上では消費税増税の反動減がポンプ、血糖計チップを中心に約5億円、国内プレフィルドシリンジ受託事業の受注期ズレで4億円です。

利益面では、薬価・公定価改定の影響が2億円、一方、基盤医療器の原価改善効果が4億円となりました。

前期大きなマイナス要因となったサーフローV3ですが、今期は原価改善に向け順調にフィリピン工場生産を開始しました。

血液システムカンパニー：厳しい環境下も増収増益

(億円)

	13年度 Q1	14年度 Q1	増減率	為替除く
売上高	215	224	+4%	+1%
事業利益 (率)	41 (19%)	42 (19%)	+3%	+1%

- 欧米の血小板採血の需要は横ばいも価格は下落 ▲2億
- 国内では顧客のITシステム変更等に伴う発注ずれ ▲2億
- 治療アフェレシスが海外で二桁成長 +6億
- アジア・中南米で、成分採血装置を中心に売上成長を維持 +5億
- ベトナム工場稼働準備(竣工7月)



2014/8/6

©Terumo Corporation

10/23

次に血液システムカンパニーです。

売上高は224億円となり、4%伸長、為替の影響を除き1%の伸長。

事業利益は42億円、3%の伸長、為替の影響を除き1%の伸長です。事業利益率は19%の利益率を維持しました。

売上は欧米での価格下落、国内では顧客のITシステム変更による発注ズレなどのマイナス要因がありましたが、治療アフェレシスが海外で二桁成長し6億円増加、アジア・中南米地域で成分採血装置を中心に5億円売上を拡大しました。

ベトナム工場が稼働に向けて7月に竣工いたしました。

14年度Q1 ローンチ済み製品

領域	製品	地域
心臓	新DES(自社開発)	欧 (予定通り)
ペリフェラル	皮下植え込み型 薬液注入システム	日 (予定通り)
アブレーション	腎除神経カテーテル	亜・南米 (予定通り)
	TRI腎除神経カテーテル	亜・南米 (予定通り)
栄養	液体流動食	日 (予定通り)



新DES (Ultimaster)



皮下植え込み型薬液注入システム (DewX Sタイプ)



液体流動食(マーメッド)

- 胃に入ると半固形に
- 胃食道逆流の低減を期待



2014/8/6

©Terumo Corporation

11/23

トピックです。この第1四半期にローンチした新製品は、ご覧いただいているスライドの通りです。

自社開発品の薬剤溶出型ステント「アルチマスター」のほか、中期計画ではリストしていなかった製品も含めて、予定通りローンチしております。

14年度Q2-Q4 ローンチ予定の製品

領域	製品	地域
ペリフェラル	バルーン(膝上)	米
	バルーン(膝下)	日欧
	ステント(膝下)	欧
脳	コイルアシスト・ステント	米
	頸動脈ステント	欧
心臓	新PTCAバルーン	欧
血液システム	成分採血装置(血漿)	日
	自動血液製剤システム	日
	血液治療装置(顆粒球・骨髄幹細胞)	米
輸液システム	閉鎖式輸液ライン	亜
	高機能輸液・シリンジポンプ	中



コイルアシスト・ステント (LVIS)



頸動脈ステント (CASPER)



2014/8/6

©Terumo Corporation

12/23

第2四半期以降にも、これまでお見せしてきた予定の新製品に加え、ニューロバスキュラー事業において、頸動脈ステントをローンチしていくなど、パイプラインの拡充を図ることで、更なる成長に向けて取り組んで参ります。

以上で、2015年3月期 第1四半期の決算概要の説明を終了致します。

ご清聴ありがとうございました。

参考資料

事業別 地域別売上高と伸長率（Q1）

（億円）

事業 セグメント	日本	海外 計					合計
			欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	118 (-3%)	428 (7%)	164 (6%)	174 (9%)	42 (-4%)	48 (14%)	545 (5%)
うちカテーテル*	91 (-4%)	317 (7%)	129 (7%)	112 (11%)	39 (-3%)	37 (9%)	408 (5%)
ホスピタル	289 (-6%)	91 (0%)	31 (6%)	17 (-19%)	3 (13%)	39 (7%)	380 (-4%)
血液 システム	27 (-5%)	197 (1%)	65 (1%)	93 (1%)	7 (-18%)	32 (7%)	224 (1%)
合計	434 (-5%)	715 (5%)	260 (5%)	284 (4%)	52 (-5%)	119 (10%)	1,149 (1%)

*ニューロバスキュラー事業含む

下段()内は為替影響除く対前年同期伸長率



2014/8/6

©Terumo Corporation

14/23

販管費

(億円)

	13年度Q1	14年度Q1	増減	増減率
人件費	154	169	+15	+10%
販促費	37	37	+0	+1%
物流費	27	27	+0	+1%
償却費	53	59	+6	+11%
その他	90	87	-3	-3%
一般管理費計	361 (32.4%)	379 (33.0%)	+18	+5%
研究開発費	76 (6.9%)	67 (5.8%)	-9	-12%
販管費合計	437 (39.3%)	446 (38.8%)	+9	+2%

()内は対売上高%



2014/8/6 ©Terumo Corporation

15/23

販管費

(億円)

	13年度Q1*	14年度Q1	増減	増減率
一般管理費計	371	379	+8	+2%
研究開発費	78	67	-11	-14%
販管費合計	448	446	-3	-1%

* 為替の影響を除いた換算値

四半期の動き

(億円)

	FY13Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY14Q1 (4-6月)
売上高	1,111	1,149	1,192	1,221	1,149
粗利益	570 (51.3%)	601 (52.3%)	615 (51.6%)	633 (51.9%)	607 (52.8%)
販管費	437 (39.3%)	430 (37.4%)	437 (36.7%)	463 (37.9%)	446 (38.8%)
営業利益	133 (12.0%)	171 (14.9%)	178 (14.9%)	170 (14.0%)	161 (14.0%)

期中平均	US\$	99円	99円	100円	103円	102円
レート	EUR	129円	131円	137円	141円	140円



2014/8/6

©Terumo Corporation

17/23

粗利益率、販管费率、営業利益率

(%)



粗利益率



販管费率



営業利益率

Q1

Q2

Q3

Q4

Q1

(各四半期の3ヶ月単位)

13年度

14年度



2014/8/6

©Terumo Corporation

18/23

設備投資と研究開発費

(億円)

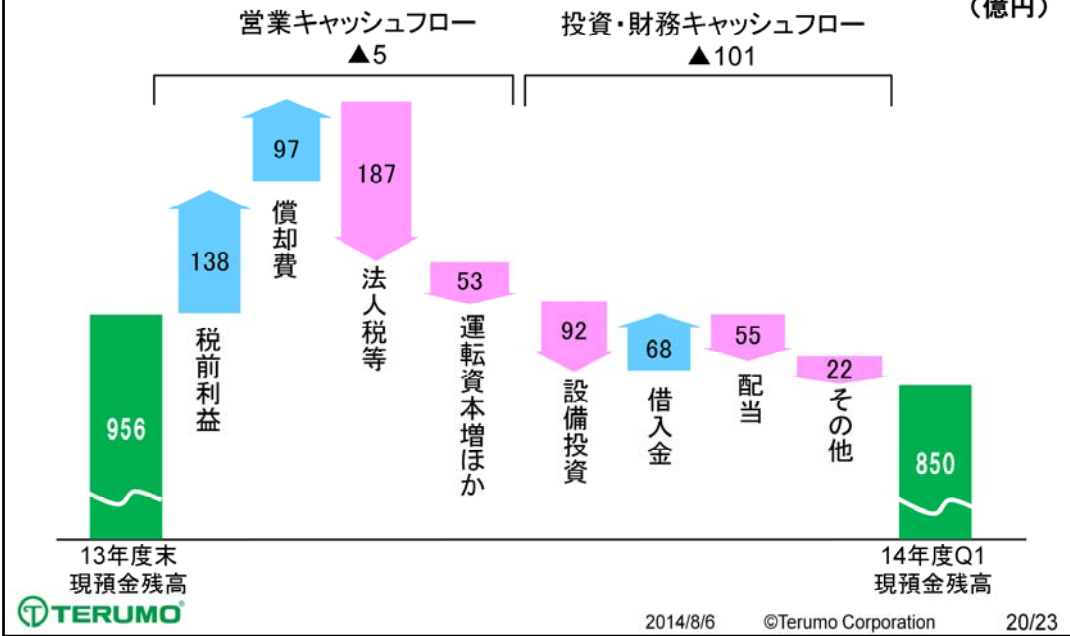
	15/3期 見通し	Q1 実績	進捗率
設備投資	420	92	22%
償却費*	410	97	24%
研究開発費	310	67	22%

* のれん・無形資産含む、設備投資は取得ベース

キャッシュフロー

Q1は法人税納付の影響大

(億円)

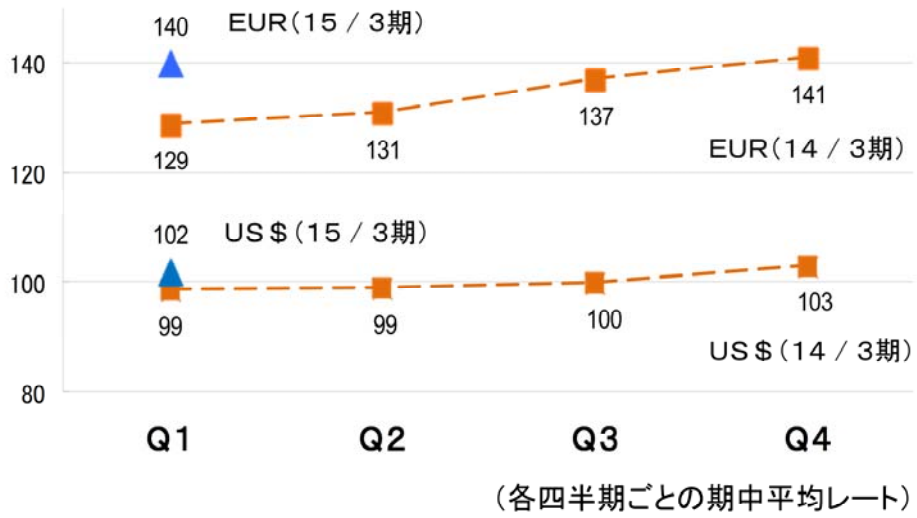


為替感応度

(億円/年)

	ドル	ユーロ
売上高	18	7
営業利益	3	4

四半期平均為替レートの推移



おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。